

コロナ禍は続いています。幸いにも鉄道で大規模な集団感染は発生していません。この要因として、お客様がマスクや消毒などの感染対策を行っていることに加え、窓開けや換気装置などによって、走行中でも車内が換気されていることがあげられます。鉄道総研では、シミュレーションで換気の効果を確認するなど、コロナ禍に対応した研究に取り組んでいます。

コロナ後の世界では、持続可能な社会の実現のため、省エネルギーや蓄エネルギーに注目が集まることが予想されます。今月号で紹介した超電導技術は、非常に低い温度に冷やすと電気

抵抗がゼロとなる現象です。鉄道総研では、超電導リニアの研究だけでなく、省エネルギー向けの超電導電力ケーブルや、蓄エネルギー向けの超電導蓄電装置の研究に取り組んでいます。持続可能な開発目標SDGsへの貢献が期待されます。

さて、来月号の特集は「軌道の弱点箇所を解消する」です。レールやまくらぎの弱点となりやすい箇所をとりあげて、その解消に向けた取り組みについて紹介します。どうぞご期待下さい。  
(M. T.)